

マラナ・タ (μαράνα θά. –Maranatha)

コリント人への手紙一 16 章 22 節にあることばで、「主よ、来たり給え」と云う意味です。しかし、Freiberg ギリシャ語レキシコンによれば、初期のキリスト教礼典におけるアラムの祈りの言葉で、意味は次の二つの場合があるようです。

1. 主の聖餐において「主が臨在され給うように」
2. 主への祈願として「主が来たり給うように」

[Fri] μαράνα θά (also μαράνα θά, μαρὰν ἄθά or μαρὰν ἄθᾱ) an aramaic formula used in early christian liturgy; either (1) at the lord's supper *our Lord is present* or (2) as a petition for the Lord to return *O Lord, come!* the latter seems preferable in the context of 1C 16.22 (cf. RV 22.20)

なお、この原語の取扱いですが、新共同訳聖書では原語を尊重し、「マラナ・タ 主よ、来てください」と原語併記で訳しており、口語訳聖書もほぼ同様に、「マラナ・タ（われらの主よ、きたりませ）。」と訳しております。

しかし、新改訳聖書では「主よ、来てください。」と訳しています。

英語訳もたとえば、

New King James では”O Lord, come!”

TEV では”Marana tha-Our Lord, come!”

となっており、日本語訳と同様原語と併記する場合としない場合の双方が存在します。

以上